

勸善懲惡新錦聞

官詠

第貳號

大塚房二天區八小區八

幡町三十七番地赤沢何

某が妻れらうとも川竹の憂

うし流るる者それども

れも心さらけなく竹乃さぐをる生れや此赤沢何某が

妻とせうも操正しく千代の行末を契り此頃丈夫病事

ゆりて既お十死一生の場合わりり医師もさゆく手を尽せ

とそ取早治療の術なるとおお君をかくと聞あつたを

うられ夜あく水を浴と神佛をのりて看病實ふい

さる事を其真心天に通せや既お必死さるゆり病

氣次第お本復し此頃全快せりと精神到處金石亦徹る

と実お感なき事を川竹育おれらあそ又うる貞婦あり所謂

泥中の蓮とて此おらうをさぐ



笹木芳瀧

新聞局

本町四丁目  
藤井時習會

80  
75  
70  
65  
60